



かけはし

令和5年3月（第12号）

公益財団法人 豊島修練会

事務局：成美教育文化会館（内）

TEL: 042-471-6600 FAX: 042-473-4590

HP「成美教育文化会館」で検索

もう一度まわりを見つめてみましょう

松尾芭蕉の句に「よく見れば なずな花咲く 垣根かな」というのがあります。

ナズナは、春の七草の一つになっているほど、親しまれている植物で、三角形の実の形が、三味線のバチに似ていることから、ペンペン草とも呼ばれます。春になると白い花が咲きますが、一つ一つの花はとても小さくて、花が咲いているのかわからないほどです。しかし、虫眼鏡で拡大して見ると、十字の白い美しい花だということがわかります。

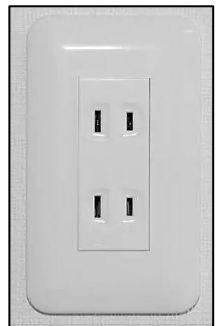


同じように春の野原を探すと、ハコベやホトケノザなど、美しい色や面白い形をしたものがたくさん見つかります。芭蕉のように、まわりをよく見つめてみると、思いがけない発見や驚きに、出会うことができるのではないのでしょうか。

ところで、電気コードの先についているプラグの先には、どれにも必ず丸い穴が開いています。この穴は一体なんのために開いているのでしょうか。使わないときに壁から出たくぎに、引っ掛けておくためのものなのでしょうか。実は、コンセントの中には丸い突起があり、これとプラグの穴が噛み合あうことで、プラグを抜けにくくしているのです。日本では経済産業省令という法律で、プラグは根元から11.3ミリの場所に直径3ミリの穴を開けることが義務化されています。もし穴の開いていないプラグのついた電気製品があったら、それは不良品です。



またコンセントの方も、二つ並んだ穴は大きさが同じでなく、右の穴の方が少しだけ小さくなっています。壁に設置されたコンセントは、左の穴が9ミリ、右の穴が7ミリの長さになっています。コンセントの左側から供給された電気は、電気製品のなかで使われ、使われた電気は右側の穴に帰ります。この関係は、乾電池の+極（プラスきょく）と-極（マイナスきょく）によく似ています。



ちなみに、「コンセント」という言葉は和製英語で、海外では通じません。英語では「アウトレット」とか「ソケット」という言葉を使います。

「コンセント」には「同心円」という意味があります。明治時代に日本に伝わってきた電気器具には、丸い形のプラグやコンセントが使われていて「コンセントリックプラグ」と呼ばれていました。日本の「コンセント」という呼び方は、ここからきています。

▲ 延長コードに記されているマークやアルファベットにも大事な意味があるようです。インターネットで検索すると、だいたいのことは教えてくれます。お手軽に調べられる時代になりました。

このように、普段何気なく使っている道具にも、改めて見つめてみると、思いがけない発見に、出会うことがあります。

(T.Y.)